

## <第6分科会> 健やかな体

### 研究課題 健やかな体を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

#### 分科会の趣旨

近年の急速な社会の変化は、私たちを取り巻く環境を大きく変え、子どもたちの生活や成長にも大きな影響を及ぼし、肥満、生活習慣病やアレルギー性疾患等の健康課題を生じさせている。また、運動能力の低下や体の育成に関する課題が指摘され、非行の低年齢化が進み喫煙や薬物乱用による健康被害も危惧されている。

子どもたちが生涯を通して、健やかに成長していく基盤として、運動・栄養・休養を柱とする調和の取れた生活習慣を形成することが不可欠である。学校教育には、子どもたちが未来に夢を描き、潤いと活力のある生活を送るために、運動や健康の大切さについての意識を高め、主体的に実践する能力や態度を育むことができる教育課程を編成し、実施・評価・改善を図ることが求められている。その中で、学校は、家庭・地域・関係機関等と連携して取組を充実させていくことが重要である。

本分科会では、未来をたくましく生きるための体力の育成を目指す教育活動と、健康教育を推進するための教育課程の編成・実施・評価・改善についての具体的方策を明らかにする。

#### 研究の視点

##### (1) たくましく生きるための体力を育む教育活動の推進

子どもたちの生活全体から日常的な身体運動が減少しており、児童の体力は全国的に低下・停滞状況にある。体育の授業だけではなく、学校教育全体で体力向上に取り組むとともに、家庭や地域との連携が必要である。児童が生涯にわたって運動に親しむ資質能力を育むためには、まず、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付けさせ、自ら進んで学習に取り組ませる授業の実践が重要である。そして、体育的な活動を教育活動全体の計画に位置付け、全教職員の共通理解のもと積極的に行う必要がある。そのため、地域や学校の実態を十分考慮して活動時間や活動内容などを工夫することが求められている。

このような視点に立ち、たくましく生きるための体力の育成を目指す教育活動を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

##### (2) 主体的、実践的な能力や態度を育む健康教育の推進

生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るためには、バランスのとれた食生活、適度な運動、十分な休養と睡眠をはじめとする基本的な生活習慣を、子どもの頃から適切に身に付けることが不可欠である。特に、小学校期は発育・発達の著しい時期であることから、健康教育は、他のライフステージにも増して重要な意義と役割を有しており、心身の成長発達に関する基本的な知識の習得と理解を図るとともに、健康に関する実践的な判断力や行動を選択する力を育てていく必要がある。

学校においては、学校保健、学校安全、食育・学校給食とそれぞれ独自の機能を担いつつ、相互に連携しながら子どもたちの健康の保持増進を図っているが、児童の発達段階や家庭・地域の実態を踏まえながら、より確かな取組を進めることが重要である。

このような視点に立ち、主体的、実践的な能力や態度を育む健康教育を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。